

金日成主席の指導のもとに社会主义の自立的工業を建設

ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会理事
ブルガリア金日成・金正日主義研究会会長
リュドミル・アレクサンドル・コスタディノフ

日本帝国主義の植民地的従属から解放される前の朝鮮の経済は、典型的な植民地経済でした。工業があるとしても、単に国の原料を採取して、日本へ輸出するためのものでした。

自立的工業の基礎である機械工業は、ほとんどありませんでした。

わずかあつたものまで、去る朝鮮戦争の時期、アメリカ帝国主義によって散々に破壊されました。そのため、朝鮮人民は、1953年戦争直後、工業を新たに創設しなければなりませんでした。

金日成主席は、自国の原料や設備、民族幹部に基づいた社会主义の自立的民族経済路線を示し、変わることなく実施してきました。そして、朝鮮は、国の自主性を堅持し、外的要因や世界的な危機などに關係なく、人民の生活を安全に発展向上させることができました。

経済建設で打ち出した基本路線は、重工業を優先的に発展させながら、軽工業と農業を同時に発展させることでした。

それは、重工業の優先的な発展を抜きにして、軽工業と農業の自立的な発展を達成することができなかつたからです。

また、人民生活を向上させるためには、軽工業と農業を速やかに発展させなければならなかつたからです。

金日成主席の指導のもとに、戦後の人民経済復興発展3カ年計画(1954-1956)は、工業総生産量から見ても2年8か月の間に完遂されました。

結果、工業生産量は戦争以前の水準を回復したばかりでなく、それをはるかに上回りました。

朝鮮は5カ年計画遂行課程を通じて、復興建設の段階から社会主义の物質的基礎を築く段階へと移行しました。

この時期に、社会主义工業化と自立的民族経済の土台が築かれました。

第1次7カ年計画は、1961年から始まりました。

この計画は複雑な国際情勢とアメリカ帝国主義との対決のため3年遅れ、1970年に完遂しました。この時期、アメリカ帝国主義の侵略威嚇のため多くの難関にぶつかりましたが、たった14年間で社会主义工業化を実現しました。

その後行われた 6 カ年計画（1971—1976）は繰り上げて完遂され、第 2 次 7 カ年計画は 1978 年から 1984 年まで成功裏に遂行されました。

この期間に、人民経済のすべての部門が近代的な設備で装備されました。

金日成主席の直接の指導のもとに、朝鮮の工業生産は毎年速いスピードで成長しました。

金属工業が大いに発展し、機械工業部門でも国の工業化実現のための大きな成果が成し遂げられました。

金日成主席の直接の発起によって「工作機械の子生み運動」が行われ、1959 年の末に至っては、多くの技術者が不可能だと見ていた 1,3000 台の工作機械を生産しました。

朝鮮は、最も近代的な金属加工設備をはじめ、すべてを世界最高の水準で生産できるようになりました。

また、朝鮮では、1958 年からトラックとトラクターの生産が始まりました。

1986 年に至り、朝鮮民主主義人民共和国では 2.5 トン～40 トン級トラックと、各種のトラクター、農機械、各種の車輛、近代的な電気機関車と内燃機関車、2 万トン級の船舶、ブルドーザー、掘削機、蒸気タービンと水力タービン、発電機、各種のクレーン、金属、化学、セメント工場などに必要な複雑な設備を作り出しました。

また、化学工業と建材生産部門でも大きな成果を成し遂げました。

重工業を発展させることによって、軽工業と農業を早く発展させることができました。

最短期間に生活用品を生産する大規模の近代的な中央企業所と、地方の中小規模の企業所がたくさん建設されました。

解放前には鉛筆さえ生産することができなかつた朝鮮で、テレビや腕時計、洗濯機、冷蔵庫を生産する近代的な工場まで操業しました。

経済分野で成果がおさめられ、人民の生活が急激に向上されました。

朝鮮民主主義人民共和国では、1974 年からすべての税金が撤廃されました。

そうして、朝鮮は全的に国家及び共同企業体の利潤でもって国家予算をつくる、世界で唯一の国となりました。朝鮮では住宅の建設もすべて国家が負担しておこなっており、それを無料で配当しています。

教育と保健医療分野では、無料教育と無料治療制が実施されています。

たとえば、戦争中であった 1953 年 1 月 1 日に、すでに無料治療制が実施されました。

人々の平均寿命は 1940 年代の 38.4 歳から 1986 年には 74.3 歳となり、ほぼ

2倍に増えました。

これらのすべての社会的恩恵は、20世紀末のもっとも困難な時期にも続けられました。

国の自主性と社会主義を守るために各年代に建設された自立的工業の威力は、20世紀末にはつきりと誇示されました。

ソ連と東ヨーロッパで社会主義が崩壊した後、朝鮮民主主義人民共和国は苦難の行軍をするようになりました。

以前の社会主義諸国との経済関係が断絶され、帝国主義者の軍事的脅威と経済封鎖がさらに強まる中、1995年から1998年までの間に、かつてない自然災害まで重なり、莫大な経済的損失をこうむるようになりました。

朝鮮人民は、金日成主席の後継者である金正日総書記の指導のもとで、このような最悪の試練の時期を成功裏に乗り越えました。

1998年に敵が社会主義の「終焉」を待ちこがれていた時、朝鮮は自国の運搬ロケットに搭載した初の人工衛星を成功裏に打ち上げました。

この歴史的な勝利は、社会主義の自立的工業がもたらしたものです。

金正日総書記が逝去した後、若くて熱情的な金正恩総書記の指導のもとに社会主義の自立的工業建設は続けられました。

朝鮮民主主義人民共和国の新たな経済発展の主な目標は、強国を建設することでした。

この時期、科学技術と経済分野で目覚しい成果が認められ、人民の生活が向上しました。

何よりも国内の企業所で生産した新しい設備に基づいて、ほとんどすべての工業部門の現代化が推進されました。

経済制裁と圧殺策動によって、一連の主要企業体の原料基地が国内の原料を利用するように改造されたのも、この時期におこなわれた近代化の特徴のひとつでした。

たとえば、金属部門ではコークスを利用しない鉄生産技術を確立しました。

合成肥料生産ではすでに、国内の石炭を原料に利用していました。

廃棄物で作った2次原料も大々的に利用しました。

大規模及び中小規模の水力発電所と火力発電所も多く建設されました。

機械工業部門では、CNC旋盤を世界的水準で作り出しました。

大きな意義を持つ科学技術成果のひとつは、ロケット技術と宇宙開発活動で認められた成果です。

重工業と機械工業の発展に基づいて軽工業と農業が発展しており、人々の生

活水準も高まっています。

金正恩総書記の指導のもとに、朝鮮民主主義人民共和国が金日成主席の念願を実現し、強力かつ自主的な社会主义国家、自国の力と資源に依拠してすべてが繁栄し、持続的に発展していく社会になるだろうと信じてやみません。